

令和3年度の水道事業は、給水人口は減少していますが、給水戸数は微増となりました。

また、漏水箇所の修理などにより有収率(※1)は増加し、事業収支は黒字となりました。

令和3年度の実業としては、市街地(西町地区等)の老朽化した配水管の改修工事を行いました。また、浄水場施設についても機械および電気設備の更新工事などを行いました。町民のみなさんへ安全・安心な水道水を安定的に供給していくため、引き続き計画的な更新を行なっていきます。

水道事業は「地方公営企業」(※2)という企業形態で経営され、事業に必要な経費は水道料金でまかなわれています。事業運営の健全維持のため、必要な工事量などを見極め、事業収支のバランスや財源の確保など、効率的な事業運営と給水サービスの向上に努めています。

(※1) 有収率～浄水場から出た水の量(配水量)と料金として収入のあった水の量(給水量)との比率。

100%に近いほど、効率の良い経営が行われている(給水量÷配水量×100)。

(※2) 地方公営企業～町の一般会計とは区別した独立採算性に基づく事業。

令和3年度決算額

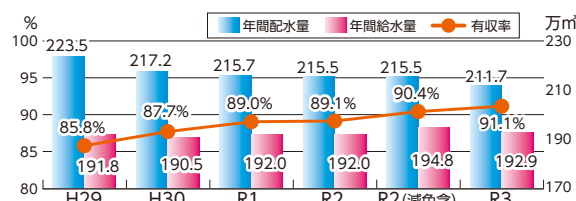
経営成績である損益計算書の収益は、4億5,830万円(前年度比678万円減)になりました。そのうち水道料金収入については976万円の増収となっています。一方、費用については4億3,200万円(前年度比355万円減)となっており、施設維持管理費など営業費用で4億671万円、償還金利息など営業外費用で2,529万円となりました。これにより令和3年度の純利益は、2,630万円となりました。

資本的収支では、支出については老朽化した配水管整備や設備の更新工事などに係る建設改良費で3億8,915万円、企業債償還金と合わせ計5億690万円となり、収支で3億8,000万円の不足が生じることから、損益勘定留保資金(※3)等で補てんしました。

(※3) 損益勘定留保資金～経常費用のなかで現金の支払いが伴わない経費(減価償却費等)。

配水量・給水量・有収率の推移 (m³)

R 3	
年間配水量	2,117,106
年間給水量	1,928,938
有収率	91.1%



収益的収支の状況(1年間の経営活動に伴い発生する収支)

	主な予算科目	決算額	対前年度比伸率
水道事業収益	給水収益	4億2,310万円	2.4%
	受託工事収益	346万円	△45.1%
	その他営業収益	1,130万円	△22.6%
	営業外収益	2,044万円	△29.6%
	特別収益	0万円	皆減
	収益合計	4億5,830万円	△1.5%
水道事業費用	人件費	5,218万円	△24.9%
	物件費	1億1,029万円	△8.7%
	受託工事費	346万円	△45.0%
	減価償却費	2億756万円	4.6%
	資産減耗費	3,322万円	164.4%
	支払利息	2,520万円	△5.6%
	その他費用	9万円	△90.0%
	特別損失	0万円	皆減
	費用合計	4億3,200万円	△0.8%
	収益的収支差引	2,630万円	

資本的収支の状況(資産取得に伴い発生する収支)

	主な予算科目	決算額	対前年度比伸率
収入	企業債	1億2,690万円	32.5%
	工事負担金	0万円	皆減
	道補助金	0万円	皆減
	収入合計	1億2,690万円	△12.7%
支出	建設改良費	3億8,915万円	△4.6%
	企業債償還金	1億1,775万円	17.5%
	費用合計	5億690万円	△0.2%
	資本的収支差引	△3億8,000万円	

業務量および企業債(※4)の年度末残高

年度	年度末給水戸数	年度末給水人口	年度末企業債残高
R3	10,112戸	19,634人	21億409万円

(※4) 企業債～国や地方公共団体金融機構等からの借金。

※水道施設等の整備を行うための費用は莫大であり、水道料金だけでは足りないため、企業債で補っています。また、収益的収支で得た利益は、これらの借金の返済(償還)に充てられます。

町営牧場は、町の基幹産業である酪農畜産経営の生産コスト低減と労働力軽減などを目的として昭和38年に設置されました。昭和43年には農業構造改善事業で開陽台牧場、昭和56年には国営事業で俵橋牧場を開設し、主に人工授精牛の夏季における預託放牧を行なっています。

受入頭数は、多頭飼育による酪農経営の大型化により近年900頭ほどが入牧しています。

平成27年度から道営公共牧場整備事業で開陽台牧場の再整備を実施し、令和3年度で草地および衛生管理施設等、一定の整備を終了しましたが、引き続き公共牧場としての役割を十分に発揮させ、預託農家の要望に応えるためには、更なる運営方法の工夫・検討が必要であると考えています。

また、今年度も口蹄疫など海外悪性伝染病の侵入防止対策、家畜伝染病の発生予防とまん延防止のため、北海道根室家畜保健衛生所等の指導の下に予防検査を実施し、適切な牧野衛生と事故のない牧場運営に努めます。

令和3年度決算額

歳入		歳出	
放牧料	3,289万円	管理費	158万円
入牧手数料	54万円	事業費	5,349万円
財産運用収入	568万円	公債費	1,387万円
繰入金	1,601万円		
その他	2万円		
町債	1,380万円		
合計	6,894万円	合計	6,894万円

【主な歳出の内訳】

- ◆管理費……消費税、牧場運営委員会などに係る諸経費
- ◆事業費……草地の管理経費、道営事業負担金など
- ◆公債費……借入金の元金および利子の償還金